

令和6年度 浜松市立曳馬中学校 学校評価報告書

I 令和6年度の方針・目標

○基本方針（中長期ビジョンを含む）	○学校教育目標【夢と希望と勇気を持って生きる生徒の育成】
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自他の命を大切に作る人づくりを推進する。 2. 発達支援教育の理念を根幹に据えた教育活動の展開。 3. 情報活用能力等、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む生徒の育成する。 4. 学ぶことの意義を理解させ、学習の基礎・基本の定着と深化充実を図る。 5. 人間としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 6. 望ましい生活習慣を身に付けさせるとともに、気力・体力・忍耐力等を育むことを目的とする「健康教育」を推進する。 7. コミュニティ・スクールの充実等、家庭や地域とともにある学校づくりを推進する。 8. 曳馬小・上島小との連携を深め、9年間の学びと育ちをつなぐ小中一貫教育を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> ○学校経営目標【自分らしさを大切に、よりよい集団づくりに取り組む生徒の育成】 ～「自律」「共生」～ 多様な人と共生しながら、人間関係の基礎や社会的ルールを学び、子供たちがたくましく自律して生きていく生徒を育成していく 1. 自律的に生きていく力 <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさを大切にしながら自分の意志をしっかりと持つことができる。 ・自ら定めたルールに従って行動を選択することができる。 ・自分のことを大切にしながらも、まわりの人のことを考えて生活することができる。 2. 社会の中で共に生きていく力 <ul style="list-style-type: none"> ・自分とはちがう体や心の特性、考え方をもつ人を認めることができる。 ・お互いを分かり合うために話をしたり、支え合ったりしながら生活していくことができる。 ・積極的にお互いを理解し、助け合う中で生き生きと自分の能力を発揮することができる。

II 自己評価

○生徒の評価

※数字の単位は%

①先生は、基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業をしている。	94
②先生は、興味や意欲を高める授業を工夫している。	89
③先生は、それぞれの生徒の特徴に応じた学習の手助けを行っている。	83
④私は、学級活動・生徒会活動・学校行事に積極的に取り組んでいる。	81
⑤私は、部活動（校外活動）に積極的に取り組んでいる。	88
⑥私は、学校生活において、規律のある行動を心掛けている。	87
⑦先生は、間違った行動に対して適切に指導している。	90
⑧先生は、生徒一人ひとりを理解し、大切にしている。	88
⑨先生は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。	86
⑩先生は、将来の進路や職業などについて適切に指導している。	86
⑪学校は、三者面談や教育相談等が充実し、相談がしやすい。	79
⑫私は、地域の活動やボランティア活動に積極的に参加している。	55
⑬私は、学校だよりや学年だよりなどの配付物は家の人に確実に渡している。	79
⑭学校は、私たちの安全確保や健康管理のための取組を十分行っている。	89
⑮私は、曳馬中学校の生徒であることに誇りをもっている。	86
⑯私は、進んで誰にでも挨拶ができる。	81

○保護者の評価

①学校は、基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業をしている。	73
②学校は、興味や意欲を高める授業を工夫している。	69
③学校は、それぞれの生徒の特徴に応じた学習の手助けを行っている。	57
④子供は、学級活動・生徒会活動・学校行事に積極的に取り組んでいる。	85
⑤子供は、部活動（校外活動）に積極的に取り組んでいる。	88
⑥子供は、学校生活において、規律のある行動を心掛けている。	89
⑦学校は、子供の間違った行動に対して適切に指導している。	80
⑧学校は、生徒一人ひとりを理解し、大切にしている。	78
⑨学校は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。	78
⑩学校は、将来の進路や職業などについて適切に指導している。	69
⑪学校は、三者面談や教育相談等が充実し、相談がしやすい。	79
⑫学校は、家庭・地域と積極的に連携・協力している。	81
⑬学校は、便りやホームページ、その他の方法で情報を発信している。	87
⑭学校は、子供の安全確保や健康管理のための取組を十分行っている。	85
⑮子供は、曳馬中学校の生徒であることに誇りをもっている。	77

※数字の単位は%

III 分析考察や改善策等

<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の評価は全体的にたためである。 すべての項目で生徒の評価の方が高く、学校の取り組みは生徒にとって好意的に受け止められている。ただし、保護者の期待と学校の対応の間にギャップがある可能性がある。そのため、生徒・保護者の双方の意見を積極的に収集し、アンケート結果をもとにした改善策を講じることで、より納得感のある教育環境を整え、フィードバックの双方向性を強化する。 2. 興味や意欲を高める授業への保護者評価が比較的低い。 保護者が69%、生徒が89%というように、基礎学力の評価より若干低かった。授業の工夫が伝わりにくいのではないかと推測される。そのため、ICTの活用など、具体的な授業改善の取り組みを発信し、保護者にもその内容を理解してもらい、各種便りやブログ等を充実させ、学校の取組をより明確に保護者に伝えていくなど、興味関心を高める工夫を可視化していきたい。 3. 個別対応に対する保護者評価が低い。 保護者が57%、生徒が82%というように、特に保護者の評価が低かった。一人ひとりに応じた学習支援に対する満足度が課題となっている。そのため、生徒一人ひとりに対する支援体制を整え、特に保護者が感じる対応不足を解消するため、個別面談や学習相談の機会をより充実させ、個別対応を強化する。 4. 地域の活動やボランティア活動への生徒の参加が低い 資源物回収には、多くの生徒が参加できているが、部活動との兼ね合いで参加できない場合もある。昨年度よりは10%以上評価が良くなってきているので、学校からの呼びかけ等の啓発は今後も継続していく。
--

IV 学校運営協議会による学校関係者評価

<p>令和7年2月21日（金）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、分析及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。</p> <p>○ボランティアについては、地域の活動やボランティアの捉え方によって、集計できていないものがあるかもしれない。必ずしも社会貢献でなくても、地域の人たちとつながることが教育的だと感じる。</p> <p>○保護者へ伝わるよう面談等で伝えていけばよい。</p> <p>○子どもの成績が上がらなければ保護者評価が低くなるのは当然である。中学生が親にすべて報告するわけではないので、生徒の評価が80%あるなら、保護者評価の80%を目指さなくて良いと思う。</p> <p>○いじめ対策委員会の取り組みはとても良い。校内のいじめでなくても対応できる体制はあるのだろうか。保護者の学校に対する言動が強いことある。担任を飛び越して、直接校長や教育委員会に話がいくこともある。</p>
--

V 今後の改善方策等

<p>学校関係者評価を基に、以下の点を中心に改善を図っていく。</p> <p>○資源回収、地域防災、協働センターまつりのボランティア、馬込川沿いの道路の壁面アートなど地域とのつながりは現状でもあるので、今後、地元の企業等ともつながり広がりを作っていく。</p> <p>○タブレットによって、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のどちらも行うことができ、持ち帰って復習やドリルを行うことができるため、活用を推進していく。また、タブレットばかりに頼らず紙に書くことや話すことを含む学力向上ができるよう職員研修も行っていく。</p> <p>○保護者への連絡や面談、学校ブログ等で、学校の様子を保護者に伝えていく。</p> <p>○情報があれば、校内のみならず、他校、教育委員会等、多方面と連携できる体制がある。アンケートからいじめが発覚することが多いため、アンケートに書けるよう、生徒との人間関係をしっかりと作るように心掛けていく。</p>
